

現代における銭湯の価値とその役割

ー富山県一般公衆浴場運営者の視点からの一考察ー

The Value and Role of Modern Public Bathhouses:
A Study from the Perspective of Public Bathhouse Operators in Toyama Prefecture

コミュニティデザイン／論文

地域キュレーションコース

長竹 凜
Nagatake Rin

●研究目的

一般公衆浴場(以下、銭湯)は、公衆衛生を保つための生活施設として地域に根付いてきたが、1960年代以降の家風呂の普及によりその数は減少し、運営の継続が課題となっている。その背景には、設備投資や修繕費の負担、後継者不足、利用者の減少といった社会的要因がある。一方で、近年では地域コミュニティの形成や防災拠点、観光資源など、新たな役割が見直されている。

都市部では若い世代による新しい運営スタイルや法人による継業が進む一方、地方では厳しい経営環境の中で継業の必要性が高まっている。銭湯の存続には、既存施設の継業が重要であり、運営者の動機や継続の要因を明らかにすることが、今後の継業のための知見となると考えられる。

これまでの研究では、銭湯の社会的役割や利用者の意識に関するものが多いが、運営者の意識や行動に焦点を当てたものは少ない。本研究では、①銭湯運営者の運営動機を明らかにし、②運営者や利用者の行動から現代の銭湯の価値を考察し、③運営者の経験や施設の特徴がどのように運営に影響しているのかを分析することで、継業に関する知見を提供することを目的とする。

●研究方法

研究は以下の(1)~(5)の手順で行った。

(1)まず、地図統計ソフトを用いて富山県内の銭湯の立地特性、周辺環境の特徴の整理を行った。さらに、文献を参考に各浴場の運営体制、設立、設備等をエクセルで整理し、それらをもとに15軒の対象を選定した。

(2)次に、調査協力が得られた15軒の銭湯を対象に半構造化形式でヒアリング調査を行った。ヒアリング項目を以下表1に表す。

(3)(2)によって得られた録音データの文字起こしを行い、逐語録を作成した。その後、発言を一つ一つの意味のまとまりに区切るコーディングを行い、施設の開業の経緯や設備、環境要因などが含まれる「出来事」、職業や出身などの運営者個人の属性や経験が含まれる「経験」、運営動機や取り組みの理由が含まれる「考え・思い」、実際に施設として行っている「取り組み」、利用者の反応や行動があらわれた「利用者の声/行動」の五つに分類をした。なお、これらの分類は、コミュニティ・カフェの場所のしつらえ方に影響を与えるものとして、開設までの行政・専門家とのやりとり/地域の状況/主のこれまでの地域活動の経験があることを明らかにした既往研究をもとに設定した。

(4)以上をもとに運営者の意識構造が視覚化できる図表を施設単位で作成した。個々のコードをKJ法を用いてグルーピングし、サブカテゴリやカテゴリ名をつけ、それぞれの行動や思考の起点となるものを辿ることができるよう関連がある言説同士を線で繋いだ。さらに、それらから得られた「運営動機」や「モチベーション」など、【運営の継続動機】になりうるものや利用者や施設運営者の行動/取り組みにより創出していると考えられる【価値】を抽出した。

(5)得られた、継続動機を整理し、(1)で整理した施設の運営体制や立地、設備等の特徴と比較しその傾向を見るためにクラスター分析を行った。

得られたクラスターや価値の比較、さらに、運営体制、立地や施設の特性との関連を考察し、銭湯の現代社会における価値とその構造を考察する。

表1

期間	2024年8月~11月
方法	現地に訪問し、半構造化インタビュー形式での1時間前後の聞き取り
項目	対象者の属性 / 運営・経営の経緯 / モチベーション / 独自の活動や取り組み、その背景 / 銭湯と地域との関わり / 継業について・その理由 / 地域社会・文化・衛生等に関する意識
対象	富山県公衆浴場組合加盟施設から地域 / 運営体制などの特性に応じて15軒選定

●調査結果

各施設で見られた運営動機を一覧にしたものが表3である。既往研究において銭湯運営者の継続要因として明らかにしていた「経済的理由」「地域貢献」「社会的役割」の他、利用者との関わりや自己実現、自身のライフシフトの変化に伴うもの、銭湯/文化の継承、家業の存続のためといった継続要因が挙げられた。

また、得られた銭湯の運営動機をもとにクラスター分析を行い、運営動機ごとに分類すると、「利用者関係重視型」「地域貢献/銭湯文化継承型」「内発的動機/経済的要因型」「他律要因型」の4つの類型に分類された。高齢者の運営者は利用者との関わりを継続のモチベーションとしており、若年層の運営者は自己実現が原動力となっている傾向が見られ、運営者自身の運営動機と関連している可能性がある。さらに、前経営者の借金など消却的な理由が運営の継続の理由となる場合もあり、利用者との関係や自己実現が、時に消極的な貢献を補うモチベーションや原動力となっていることが考えられる。

銭湯の運営動機や利用者の関わり方をもとに、その価値を類型化すると、以下の4つのパターンが見られた。

- ①利用者関係重視型：長年通う常連客が多く、内番台式の施設では、利用者同士の見守りや助け合いが自然に生まれている。一方で、地域外からの利用客が多く、銭湯で出会った利用者同士が施設外でも交流するなど、地縁型とは異なる新たなコミュニティの形が確認された。
- ② 他律要因型：広いロビースペースや定期的なイベントが開催されることにより、単なる入浴施設としての機能を超え、多世代・多属性が集う場となっている。駐車場の整備や立地条件も影響し、近隣だけでなく車で離れた場所からも利用者が訪れるなど、地縁型コミュニティと地域外のコミュニティが融合し、共存する場として機能していると考えられる。
- ③地域貢献/銭湯文化継承型：地域住民の健康維持に寄与し、徒歩圏内の住民が通える場として機能している。また、駄菓子の販売や社会科見学の受け入れなど、子育て支援にも取り組んでいることが確認された。これにより、単なる入浴施設ではなく、地域に根付いた文化的な拠点となっていると考えられる。
- ④ 内発的動機/経済的要因型：近隣住民の利用が多いことや、ロビースペースの工夫によって、単なる入浴施設を超えた生活支援の場となっている。また、行政との連携によるを通じて銭湯が現代社会における生活必要施設や福祉的な役割を果たしている可能性が示唆された。

表2

価値		
サードプレイス	居場所	高齢者の居場所
		ファミリー層の居場所
		学生の拠り所
		子供が集う場
	地域の拠点	集会機能
		地域の拠点
地域内での関係構築の拠点		
場所の提供		
社会関係資本	コミュニケーション	多世代交流
		コミュニティの場
		コミュニケーションの創出
		情報交換の場
		出会いの場/利用者同士の関係構築の場
	一人暮らしの人のコミュニケーションの場	
	見守り	高齢者の健康管理
		利用者/高齢者の見守り
		利用者同士の見守り
		生存確認
行政と連携した見守り		
福祉	運動機能維持	リハビリ/健康支援
		高齢者の徒歩での外出機会
		高齢者の外出機会
		運動の場
	生活支援	買い物支援
		移動支援
		高齢者のインターネット支援
		入浴支援
安全な入浴		
雇用の確保	高齢者の雇用	
インフラ	社会的インフラ	災害時の支援
文化/教育	子供への教育/支援	子育て支援
		子供の教育/学習の場
	文化の継承	文化的価値のある資源の保存
		地域の文化の継承
観光	観光資源	観光資源
		地域外利用者の拠点
		周辺施設との循環
	娯楽・レジャー	娯楽の提供
		大きいお風呂

●結論

利用者間の交流を促進する場、地域の福祉や健康を支える場、さらには文化を継承する場として、多様な価値を生み出していることがわかった。特に、運営者の属性、利用客の層、施設設備や資源により、その価値に傾向が見られることがわかった。

地縁型コミュニティやテーマ型コミュニティの枠を超えた新たなコミュニティの存在が示唆され、現代社会における銭湯の役割をさらに追求する上で、利用者同士のネットワークのあり方を考える必要があると考える。また、既存の施設の運営を継続させていく中で、親族外の運営者が増加する可能性や、従来の経営形態とは異なる形態への変化が求められることが示唆される。今後の銭湯の持続的な運営を考える上では、運営者自身の動機や経営方針に加え、施設が特性として持つ、地域社会との関係性をが重要な視点となることが考えられる。

表3

利用者との関わり	人のありがたみを感じる
	利用者の存在
	利用者の反応/声
	利用者同士の出会い
	常連の方の支え
	若い人と話していると楽しい
	利用者とのコミュニケーション
	お客さんを喜ばせたい
自己実現	賑やかになっていてくれたら嬉しい
	自分の店だから
	面白みがある
	好きなことが活かせる/お風呂が好き
	自分の家を残したい
	面白そうだから
	取り組みに自分のエゴを入れる
	やりがいがある
自身のライフシフトの変化	自身の年齢/タイミング
	働き方や環境を変えたいと思った
社会的使命意識	パブリックの意識
	義務感/使命感/業
地域貢献	地域住民の交流の場の存続
	地域で生活を支える仕事をしたい
	利用者にいつも綺麗で快適なお風呂を提供したい
	地域に必要とされている
	人口減に少しでも抵抗したい
銭湯/文化の継承	銭湯の維持/継続
	銭湯を次世代に残したい
	風呂の数を減らさない
	わざわざ銭湯に行く文化を残したい
	街で最後の一軒になった銭湯を無くしたくない
経済的理由	商売として成り立たせたい
	生活のため
	借金をしているから
	経営が成り立つから
	補助金をもらっているからやめられない
家業の存続	家業を継がないといけない
	いつかは継ぐものという感覚
	あるものを続けていくべきだと思う
	家族の存在/家族に助けられている